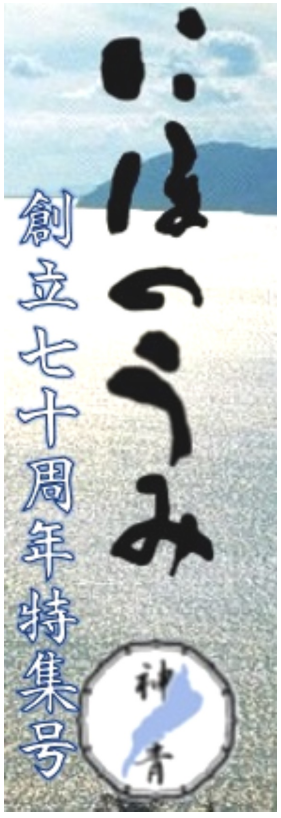
# 滋賀県神道青年会 創立七十周年記念式典挙行




七月十九日、滋賀県神道青年会創立七十周年記念式典を大津市の琵琶湖ホテルにて挙行しました。

当会は、昭和二十四年四月の神道青年全国協議会発足に呼応して同年七月に近畿地区唯一の青年神職協議会として創立しました。令和元年度に創立七十周年を迎えるにあたり、二年前の平成二十九年度に奥山会長の下で周年準備委員会を立ち上げて事業計画等を策定。昨年度以降は名称を周年実行委員会に変更し、本年度からは役員改選に伴う組織改新を経て矢頭会長・嶽山実行委員長の下、記念誌の発行やホームページのリニューアルを企画実行する「広報部会」、お社づくり・お茶づくりを中心とした記念事業を主管する「事業部会」、記念式典や奉告祭の計画準備を行う「総務部会」に分かれて会議や附帯事業を進めて参りました。

式典当日は滋賀県神社庁馬渕庁長、神青協金田会長をはじめ、当県に縁のある国会議員の先生方、県内神社関係者の方々、ＯＢ会の先輩方、各単位会ご代表、協賛企業ご代表、更に当会会員を加えた一五〇名の方々にご参会を戴きました。

まず午後四時より第一部として創立七十周年奉告祭を斎行しました。これは記念事業「お社づくり」の完成披露も兼ねており、琵琶湖ホテル内の一室を斎場に設え、完成したお社の前で祭典を行いました。斎主に西葛副会長、祭員に平尾監事、多々良理事、下井理事、奏楽に奏和会、典儀に社理事がそれぞれ奉仕。献饌に引き続いて記念事業「お茶づくり」にて奉製した抹茶を河毛事務局次長が点てて奉献しました。その後斎主が御神前で祝詞を奏上し、この御代替という奉祝の年に当会も七十周年の節目を迎えたことを慶び、各種記念事業を行ったことを奉告、今後益々の会の発展を祈念しました。

引き続き午後五時三十分より第二部として記念式典を執り行いました。まず矢頭会長が「高い意識と行動力、団結力をもって諸活動を展開された先輩方が築いた伝統を承継し、今後も会員一同が力を合わせ、青年会活動に励んで参ります。宜しくご指導賜りますよう、お願い致します。また、この場に集う各単位会の同志の皆様には、これからあらゆることを一生懸命に学び、行動していきましょう。」との式辞を述べられました。

次に嶽山実行委員長より記念事業報告を行い、お社づくり、お茶づくり、ホームページリニューアル、記念誌の発行などの事業進捗を報告。次に、ご来賓の滋賀県神社庁長馬渕直樹様、神青協会長金田祐季様、神道青年ＯＢ会副会長文室久明様を始め、国会議員の先生方からご祝辞を戴き、併せて各界から寄せられた多くの祝電も披露されました。続いて六十周年以降に会長を務められた六名の先輩方に感謝状が贈呈され、式典を目出度く終えました。

式典に引き続き、第三部の祝宴を開催しました。冒頭に矢頭会長より改めて列席者へ感謝の意を表した後、来賓ご代表による鏡開きを行い、滋賀県神社庁顧問中野幸彦様の発声で一同が声高らかに乾杯しました。和やかな雰囲気の中で宴は進み、途中には清興として県内を中心に活躍しておられる姉妹ユニット「Ｙｕｒｉ×Ｍｅｒｉ」によるミニライブを開催。また、六十周年でお世話になったパラアスリート谷真海選手の東京パラリンピックへ向けての募金活動が行われるなど、様々な企画で大いに盛り上がりました。最後は滋賀県神社庁顧問岳尋幸様の先導で弥栄を三唱し、全ての次第を滞りなく納めました。

以上のように、当会創立七十周年における最大の行事を無事に終えることができました。当日ご列席戴いた皆様はもちろん、本周年事業に賛同し御協賛戴いた皆様、事業の進捗を見守って戴いた皆様に、改めて感謝を申し上げます。今回の七十周年を迎えるにあたっては、多くの青年会員が積極的に携わることで種々の事業を展開することができました。この先も年度末まで続く関連事業や、七十一年目を迎える恒例事業等により積極的に関わって戴くようお願いし、報告と致します。

創立七十周年を迎えた当会は「三方よし～会によし・神社によし・世間によし～」をスローガンに定め、お茶づくり・お社づくり・ホームページのリニューアルといった各種記念事業に取り組んできました。ここでは、そうした事業についてご紹介致します。

## ～お茶の発祥地・近江で作る我等のお茶～
# お茶づくり事業

日本人の生活に欠かせない「お茶」。実は、この滋賀県と非常に深い繋がりを有しています。史書を紐解くと、延暦二十四年（八〇五）、日本初の茶園が近江国（大津市・日吉大社近く）に設けられたとされています。また、弘仁六年（八一五）には近江国に行幸された嵯峨天皇へ茶が奉られましたが、これは記録に残る最も古い飲茶の記録です。

滋賀県と縁深いお茶について学び、お茶を通して滋賀県の魅力を再発見したい。それだけではなく、自分達の手で名産のお茶を作りたい。そして、普段お世話になっている方々を、そのお茶でもてなしたい。そうした思いが集まって「お茶づくり事業」が始まりました。

知っているようで意外に知らない「お茶」。まずは自分達で書籍を読み解いたり、JAで茶業に携わる方から講義を戴いたりすることでお茶についての理解を深めました。そして、五感を通してお茶を知る場として、茶摘みの実施を企画しました。

「会員の手で茶摘みをしたい」との思いで県内の茶農家へお願いしたところ、甲賀市土山地区にある立岡茶園の協力を戴くことが出来ました。

高品質の一番茶を得るため、実施日は五月中旬に決定。当日は本事業の為に特別に整えて戴いた茶園で、会員とその子ども達を含む会員家族が茶摘みを実施しました。

背中を曲げた姿で行う茶摘みは、予想を遥かに超える重労働。「美味しいお茶を」との一念で励まれる茶農家の苦労の一端が身に染みました。全て摘み終える頃には、爽やかな汗が流れました。

その後は製茶工場へ移動し、自分達が摘み取った茶葉が精製される瞬間に立ち会いました。辺りを覆う馥郁とした芳香は、今なお忘れられません。

こうして、青年会員の熱い思いと、茶農家の真心が詰まったお茶「青の滴」が完成しました。

七十周年記念式典当日は奉告祭での献茶はもとより、ご参会の方々へ呈茶も致しました。お越し戴いた皆様には、滋賀県が誇るお茶の文化を感じて戴けたのではないかと思います。

## ～青年神職の手で一宇の社殿を造営する～
# お社づくり事業

本事業は、文字通り「青年神職自身の手で、一宇のお社を作り上げる」を目標に行いました。この事業の目的は、第一に、社殿の構造や建築過程などを学ぶ機会とすること。第二に、災害時など県内神社の緊急時の備えとすること。第三に、県内の交通安全や災害復興など公共の為に祈る場とすることです。

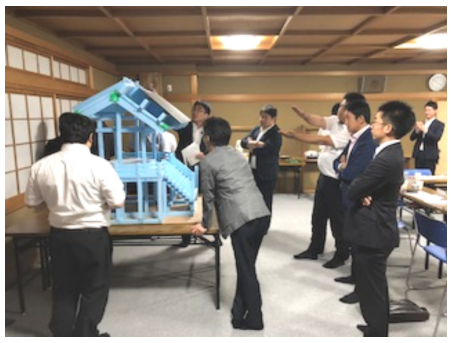
神社建築を見たり、学んだりすることはあっても、「実践する」機会は滅多にありません。製図や木工といった不慣れな作業の連続に苦戦しましたが、会員同士が力を合わせ、七月上旬に竣工を迎えました。

構想から完成まで、およそ一年。まずは、お社の構造や寸法を決めるための模型制作から始まりました。それに並行し、大工道具の扱い方や技法について理解を深める研修会も実施。工法や手順の確認はもとより、「真摯な気持ちで作業に臨み、常に本分を尽くす」という心構えも学びました。こうした下準備を経た後、お社の材料として選定した檜の前で御用木奉伐祭を斎行。伐採した御用木を製材乾燥させる間は、原寸図面の作図を進めました。全ての作業の基礎となる図面ですので、部材の寸法だけでなく、組み方や、ほぞ穴の深さも正確に算定して記入しなければなりません。

会員同士で確認し合い、時には意見を出し合い、一つの図面を纏め上げます。

そして遂に部材の加工作業が始まりました。図面通り、一分の狂いもないよう御用材へ墨打ちをしていきます。墨打ちが仕上がった後はその線に従って鋸を当てるのですが、こちらも狂いのない緻密さが要求されます。「慎重に」というより「恐る恐る」作業を進めていきました。

開始から二ヶ月後には台輪や柱など床下部分が完成し、四ヶ月後には大床・内陣・屋根にまで造作が進みました。最後に屋根の銅板葺きと金物の取り付け作業を行い、無事に竣工となりました。このお社は七十周年記念奉告祭で実際に用い、皆様への御披露目も兼ねたところです。



## ～滋賀神青の最新情報をお届けします～
# HPリニューアル

七十周年記念事業の一環として、滋賀県神道青年会のホームページを大幅にリニューアルしました。従来よりも写真を多用し、見やすいレイアウトになりました。取り組んでいる各種事業のご紹介や、青年会の最新情報をお伝えします。下のQRコードからアクセスできますので、ぜひご覧下さい。